

森精機ドリームコンテスト受賞者が語る 考えるほど「理に叶った」ツーリングシステム

スーパーG1チャックユーザー検証

ユーザー通信第118号(2011年9月29日掲載)

会社名 株式会社オスカー技研 様
(新潟県新潟市)
加工名 工業用ゴム製品金型の設計・製造
使用機械 森精機 NVXシリーズ (BT40)



オスカー技研(新潟市)

工業用ゴム金型の世界で
際立つ「自ら創りだす精神」



大塚 裕志社長



工業用ゴム金型の製品例

た。設備に関し、大塚社長は「同じ機械を何台も入れるのは増設ではない」という信念の持ち主で、「見極める力」には自信を持つ。その中で、設備群では森精機製が多くを占有し、他方、その「見極める力」に叶ったものとして、ユキワ精工製高精度ツーリングシステム「スーパーG1チャック」の存在も挙げた。



森精機製マシンが多くを占める工場内

身近なところでは「醬油さしの漏れないパッキン」等、工業用ゴム製品のための金型設計・製造、いわゆる「ゴム型屋さん」である新潟市東区のアスカー技研を訪ねた。

森精機・ドリームコンテストで2度受賞

「オスカー」とのネーミングにはどんな由来や意味があるのか、オスカー賞?」等と問うと、「いや、単純に名前が大塚だから、語呂に引掛けて」と笑う大塚裕志社長。

同社が「受賞」していたのは、森精機のドリームコンテストだった(04年・06年)。

大塚社長がベンチャー基金を元手に同社を設立したのは平成8年。工業用ゴム金型の業界は、「従業員が50名を超えるような規模の会社は稀。プラ型に比べると売上額にしてシェア2割ほど」と、その世界は「狭い」という。そんな中で後発の同社だが、「他社とは違うア

イデア、自ら創りだす精神」をモットーに、やはり、この業界でも多くの仕事で中国へ流れる中、独自の「強み」を発揮している。

「中国では千個単位の油さしの漏れないパッキン等、工業用ゴム製品のための金型設計・製造、いわゆる「ゴム型屋さん」である新潟市東区のアスカー技研を訪ねた。



ロボドリルにセットされた「スーパーG1チャック」群

ユキワ精工 ユーザー訪問

φ8mm以下の加工は全て『スーパーG1チャック』で
考えれば考えるほど「理に叶った」ツーリングシステム

「5年、10年先、ただ生き残っていくだけでは面白くない。『金型屋なのにな』といった『枕詞』が付くことが嬉しい」と締めた。

- ★ 精度分けが無い、つまり世に出ている全てが AA級というところが信用できる。
- ★ エンドミルの寿命が長いのと同時に、全てが寸分狂わず同じタイミングで寿命がくるので、精度・剛性ともに信用出来る。
- ★ わざと芯ブレさせて加工をすることがあるが、それが出来ないほど振れ精度が良い。

解決
スーパーG1チャックに
変えたら...